



株式会社ジェーンズ商会 代表
五福ふれあいまちづくりの会 ひらのとしはる
平野 俊晴さん

すべては人のために

1968年(昭和43年)、経営が厳しくなっていた時計部品卸問屋の家業を継ぐために、平野俊晴さんは早稲田大学商学部に入學します。ところが、大学で学んだのは「問屋不要論」。時計も機械式からデジタルに移行していた時代でした。会社は廃業し、見習いとして不動産会社に就職することに。そこで仲介業としての不動産業の面白さを知り、一週間の猛勉強で宅建士に一発合格します。

1993年(平成5年)に再興を果たした会社の名前は「ジェーンズ商会」。明治初期、熊本洋学校で教鞭をとったアメリカ人教師L・Lジェーンズから名づけました。ジェーンズは明治以降、教育や経済など多方面で活躍した「熊本バンド」の青年たちに大きな影響を与えた人物。平野さんはジェーンズの思想「愛・ヒューマニズム」に大きな感銘を受けます。「すべては人のために」。これが平野さんの生き方の指針となりました。

時代と古町の変遷

平野さんが小学6年の頃から暮らしているのは古町地区の米屋町。古町地区は熊本城築城を機に商人の町として栄えた地域です。町名の多くが当時の商業と地域の賑わいを今に伝えています。

「江戸時代から大正期まで、熊本の経済・商業の中心は古町にありました。

走りつづける。地域と人のために。

大正13年に路面電車が開通しましたが、路線は唐人町・細工町を避けるように伸び、人の流れが辛島町方面に移ってしまいました。戦後、街の中心はさらに花畑町、通町方面に移り、「豪商」と呼ばれた人たちは古町から離れていきました。それでも平野さんが子どもだった頃、古町地区には多くの住宅や小売り店が並んでいました。「魚屋、八百屋、医院、時計店、靴屋、電気屋、そして住居。生活に必要なものはひとつの町にすべて揃ってましたよ。人々は助け合い、商人の町としての共同体は守られていました」。

ところが、バブル経済によってマンションの建設ラッシュが始まります。住居や商店の立ち退きが相次ぎ、街は様変わりしていきました。平野さんは街づくりに奔走します。祭りの復活、歴史の語り部、小学校教師対象の講話など、町のためになることはなんでも引き受けたといいます。「時代の流れは仕方ない。ただ、ここにはまだ商人の気質が残っています。地域から人と人とのつながりがなくなることは避けなければ」。

見据えるのは地域と子どもたちの将来

ある時、平野さんに思いがけない知らせが舞い込みます。熊本市が園児の減少を理由に古町地区にある熊本五福幼稚園廃園の方針を打ち出したのです。平野さんは強い危機感を覚えます。「幼稚園は集団教育の最初の場所。幼稚園が無くなったなら、子どもたちの古町地区への愛着が薄れていってしまうのではないか」。

人口減少に伴う幼稚園の廃園は全国でも相次いでいました。平野さんは廃園になりかけた公立幼稚園が「民間譲渡」で復活した例が宮城県仙台市にあると知り、仲間と現地に赴き調査を始めます。平野さんらは、教育委員会、まちづくり推進課など、市に幼稚園を存続させたいと懸命に働きかけました。市はついに方針を転換。民間譲渡で園を存続することが決まりました。まさに「地域の歴史が動いた」瞬間でした。

熊本市は2017年2月、幼稚園の譲渡先を熊本YMCAに決定。2018年4月から新生「YMCA熊本五福幼稚園」がスタートしました。「すべては人のため」を信条に走り続ける平野さんに幼稚園への期待について尋ねました。

「子どもたちには『ここがふるさとだ』ということを中心に刻んで世界に羽ばたいてほしい。江戸時代以来の歴史はもちろん、商人が受け継ぐ懐の広さ、自由闊達と柔軟性、画一的でない個性の尊重…。うーん、一度、幼稚園の先生方にレクチャーしましょうか」。

優しいまなざしは、ずっと先の子どもたちの将来を見据えています。



1840年前後(推定)の古町地区と現在を合わせた地図。古町界隈の町名の多くは商売・職業に由来している

Pickup

リフレッシュおむた
春の野草を食べよう



YMCAフィランソロピー協会
新入社員ボランティア
入門講座

YMCA学院
入学式



Information

行こう 見よう 深めよう

5月25日 Friday

熊本YMCA 定期総会

集い
×
学び

2018年度熊本YMCA定期総会を下記のとおり開催します。多くの会員の皆様にご出席いただきますようお願いいたします。

回 5月25日(金) 18:30～21:00

場 熊本YMCA中央センター

会食 18:00～18:30

礼拝 18:30～19:00

奨励「試練の中から」

熊本東聖書キリスト教会 豊世武士さん

講演会 19:00～20:00

講師 山田公平さん(元アジア・太平洋YMCA同盟総主事)

テーマ これからのYMCA運動の方向性

表彰 20:00～20:30

因 YMCAユースボランティア委嘱／会員永年在籍者表彰／特別表彰

定期総会 20:30～21:00

因 2017年度事業報告・決算報告・監査報告／2018年度事業計画・予算報告



8月4日～8日

広島で平和について考える 第40回国際青少年平和セミナー

学び
×
交流

広島YMCA国際青少年平和セミナーは、広島をはじめ日本中の若者はもちろん、海外の若者も広島に集まり、毎年8月6日の原爆の日前後で行われています。同じ若者でも育った国や環境が違えば、戦争・平和に関する考えが違います。このプログラムを通し、参加者は考え方の違いを受け止め、平和について自分たちにできることを見だし、平和の大切さを強く胸に刻みます。

回 8月4日(土)～8日(水) 場 広島市・廿日市市
因 青少年(高校生・専門学校生・短大生・大学生)
因 被爆体験講話、平和ワークショップ、原爆資料館見学、原爆死没者慰霊祭(平和祈念式典)参列など
費 90,000円(予定 熊本～広島交通費含む)
催 広島YMCA 締 6月19日(火)
他 参加者には事前研修を実施します。日程は別途お知らせします。
団 熊本YMCA Tel 096-353-6397



5月・6月

愛されて10余年 歌声広場わいわい

歌
×
交流

団塊の世代が集う場所をつくろうと2007年に誕生した歌声広場わいわい。現在、4カ所のセンターで、月に1回、懐かしの歌を歌っています。

費 各回500円

東部センター

回 原則第1水曜日 19:00～20:30
5・6月スケジュール 5月2日(水)、6月6日(水)
団 Tel 096-382-6661

中央センター

回 原則第2水曜日 15:00～16:30
5・6月スケジュール 5月9日(水)、6月13日(水)
団 Tel 096-353-6391

むさしセンター

回 原則第3金曜日 13:30～15:00
5・6月スケジュール 5月18日(金)、6月15日(金)
団 Tel 096-248-6334

みなみセンター

回 原則第4水曜日 10:45～12:15
5・6月スケジュール 5月23日(水)、6月27日(水)
団 Tel 096-378-9370



回日時 場会場 因内容 費参加費 定定員 図参加条件 団持ち物 因対象 催主催 締締切 申申込 問問合せ 他その他

岡総主事の タラント Vol.47



心の声を聴く

新緑の映える季節は私たちを自然へ誘い、癒しや安らぎを与えてくれる気持ちの良い時期です。一方で、就職や進学、異動などもあり、期待と不安、新しい環境に適応できないことに起因するいわゆる“五月病”の時期でもあります。

カトリック宇部教会の神父で、熊本地震復興支援のために度々熊本を訪れている片柳弘史

さんの著書「こころの深呼吸～気づきと癒しの言葉366～」は、日々の生活に流されていく私たちに、思いがけない発想の転換と気づきを与えてくれます。「一歩を踏み出す」「全力で挑む」...様々な言葉から、新たな自分を発見し、日々の活力が得られます。それは、心の乱れや疲れを吹き飛ばす、さわやかな風、新鮮な空気を体に送りこむ感覚であり、深呼吸して、心の声に耳を傾けることの大切さを教えてくれます。

聖書のコヘレトの言葉の中に“ひとりよりもふたりが良い”という言葉があります。ふたりであれば、ひとりが倒れた時に、もうひとりが助け起こすことができます。人は強さと弱さ、長所と短所を持っています。社会、コミュニティにおいては、その人の持つ長所を伸ばしていくと

時に、弱さを補い合うことでうまくいくものだと思います。つまり人の弱さを補うため、自分自身の強さを持っているのです。社会においては、お互いを補い合いながら共に生きることで、自分自身も生かされ、同時に隣人も生かされることになります。

様々な課題を抱えて苦しみ、自身を肯定できない人、夢や希望を持たず、試練と忍耐の中にある人々に、そっと寄り添う社会が本来の「共に支え合う社会＝ひとりよりもふたりが良い社会」ではないかと考えます。私たちの周りには、お金では決して買うことのできない豊かさがあります。希望を持たないとき、私たちはその存在に気づいていないだけかもしれません。心の声に耳を傾けて聴きましょう。

talanton

R | E | P | O | R | T

[2月24日⇒ 4月14日]

国際理解

多くの人に知ってほしい タイ・ユースワークキャンプでの学び

2月24日(土)～3月6日(火)に実施されたタイ・ユースワークキャンプに初めて参加しました。タイ北部の山岳少数民族の村を訪問して行ったワークは、村の学校の洗面台作り。ワークの他、熊本YMCAが20年以上支援している若竹寮の子どもたちとの交流やホームステイ、そして、子どもたちが抱える問題について学ぶ機会がありました。

タイでは、貧困や教育の機会の不足から、今も子どもが人身売買や商業的性的搾取に巻き込まれるケースがあることを知りました。子どもたちを犯罪から守るために横浜YMCAがサポートしながら運営されているパヤオセンターでは、学校に通える環境

を整え、農業を教えたり、集団生活を通して自立支援を行ったりしていました。

世界で起こっている紛争や犯罪は、目を向けなければ知らないままで過ごすこともあります。私はこのキャンプで子どもの頃の教育や人から注がれる愛情が、その後の人生に例えようのないほどの役割を果たしているのだと感じました。そしてもっと多くの人に現状を知ってもらいたいと思いました。

優しく微笑んで私たちを迎えてくれて、お別れ時には「また来てね」と手を握ってくれたタイの人たちの温かさは忘れられません。成長した自分になって、また訪れたいです。 熊本大学4年 川畑愛



防災

子どもたちに生きる力を 311チャレンジキャンプ

3月10日(土)～11日(日)、子どもたちの防災意識と技術を高め、生きる力を育むことを目的として防災体験キャンプを行いました。

熊本地震後の2017年にスタート。2回目の開催となりました。一行はむさしセンターを出発して徒歩で合志市の宿泊・研修施設「三つの木の家」へ。開所式を終えた子どもたちは、早速テント張りにチャレンジしました。グループで協力して立派なテントが完成。その後、空き缶でご飯を炊きました。慣れない缶切りを使い、お米を入れる穴を缶に開けて作った空き缶

ジャーで美味しくお米を炊くことができました。お風呂の後には新聞紙でスリッパを作成。子どもたちからは「新聞はいろんなことに使えるんだね」等の声が上がっていました。

2日目の朝食は、牛乳パックを燃料にしてホットサンドを調理。「牛乳パックってこんなに燃えるんだ」と子どもたちは驚きの表情でした。その他、2日間の様々なプログラムを通して、楽しみながら災害に対する備えを学ぶことができました。

職員 平井義文



プログラム

友だちと一緒にだから頑張れた 全国あんざんコンクール入賞

YMCA水前寺幼稚園では2015年5月に放課後教育事業「Yっこ教室」をスタート。現在、バレエ、ピアノ、2歳児リトミック、そろばん教室を実施しています。そろばん教室に在籍する小学1年生(当時)の3名が、昨年行われた「全国あんざんコンクール」(主催/日本珠算連盟・各地珠算連盟)の小学1年生以下の部で全国100位以内に入賞するという快挙を成し遂げました。3名は水前寺幼稚園の卒園児。年中からそろばんを始め、小学2年生になった現在も教室に通っています。

熊本県内で1位、全国35位となった丸住菜々美さ

んは、在園時にはバレエ教室とみなみセンターの体操にも参加。母親の文子さんは、「初めは、“通常の保育時間以降にも預かってくれて、しかも、習い事ができるのはありがたいな”と思って通わせるようになりました。YMCAは子どもたちがいろいろなことを経験できるからいいですね。今は、そろばんがとても楽しいみたい。入賞は3人で頑張ったからこそ結果だと思います」と話します。菜々美さんも「お友だちと一緒にできるから楽しい」とにっこり。将来の夢を聞くと「そろばんの先生」と答えてくれました。これからもYMCAに通い続けたいそうです。



入賞した3名(中央が丸住菜々美さん)

防災

熊本地震から2年 復興祈念プログラムを開催

熊本地震発生から2年を迎えた4月14日(土)、「今までも 今からも 熊本YMCAとともに 4.14熊本地震復興祈念プログラム」をYMCA中央センターで行いました。第1部は震災当時災害ボランティアセンターの運営に携わった熊本県社会福祉協議会の桂誠一さんによる講演。ボランティアセンターの働きや災害に見舞われた時の支援を受ける側、支援する側の心構えなどについて語られ、参加者からは、「何よりも、被災者に寄り添うことが大切なのだと感じた」などの感想が寄せられました。

第2部では、防災ゲーム「クロスロード」を使った

ワークショップをくまもとクロスロード研究会の協力で行いました。クロスロードとは災害時に迫られる選択をもとにゲーム方式で参加者同士が意見交換を行うもの。68名が11のグループに分かれて進行。活発な意見交換が行われ、非常に熱を帯びたワークショップとなりました。「熊本地震の時には、たくさんの判断を求められた。その時の判断がベストだったのかと、考える機会になった」「少数の人の意見にも耳を傾けることの大切さを学んだ」など、熊本地震を振り返り、今後の防災について考える機会となりました。 職員 福山裕敏



ワークショップの様子

Snap

【スプリングキャンプ】

この春は、6つのキャンプに102名の子どもたちが参加。
たくさんの笑顔と頑張る姿を見ることができました。



YMCA熊本五福幼稚園が開園

昨年の2月、学校法人熊本YMCA学園が、熊本市立熊本五福幼稚園の民間移譲に係る引受法人として決定しました。その後、半年間の合同保育を経て2018年4月1日から、新たにYMCA熊本五福幼稚園としてスタートすることになりました。

4月6日（金）には、ご来賓、地域の皆さんに見守られる中、全園児、保護者の皆さんと一緒に開園式を行うことができました。



前身である熊本市立熊本五福幼稚園は、歴史が古く、1887年（明治20年）に熊本幼稚園、1896年（明治29年）に五福幼稚園として設立され、1983年（昭和58年）に2つの園が統合され、現在に至っています。古くから商人の町、問屋の町として栄え、幼児教育に対しての期待と熱い思いがあふれた、地域とのつながりも深い幼稚園です。今回、この2つの園名にYMCAが加わり、新たな歴史が育まれていくことになります。

水前寺幼稚園に次ぐ、熊本YMCAの2つ目の幼稚園として、子どもたちの幸せと成長を願い、末永く、この地域で必要とされる幼稚園であり続けられますように、一步一步、歩みを進めていきたいと思います。

園長 井上和美

わたしと聖句

ヨハネによる福音書4章14節

わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。

主から与えられた水を飲む

私はこれまでもそうですが、特に震災の後、主にあつて、ゆっくりと、そして確実に、教会を新しい明日へ導いていこうと牧会してきました。

今日は世の中も、教会も急ぐこと、忙しいが当然のようになっているような気がします。しかし「ゆっくり」は決して悪い事ではありません。ゆっくり歩いているからこそ、周りの景色がよく見え、新しい発見や学びもあるのです。

その中で私は神にゆだねることを学び、力と勇気をいただきました。私は自分の無力さを感じ、祈禱会、その他の集いの説教の御用を休まず

に行えたことに対し、感謝しています。とにかく「急ぐ、忙しい」ではなく「ゆっくりと確実に」その中でこそ、主に信頼してゆだねる喜び、神の御思い、またみんなの思いを受ける喜びがありました。

また牧師になって、私はみんなに与えることばかり考えていて、正直心身ともに枯渇し疲れていた時がありました。そんな時、教会のみなさんの思いを受け取ることは本当に新鮮な喜びでした。「素直に受け取ってよいのだ」と自分を神とみなさんにゆだねることで、私は力と勇気を与えられました。つくづく力と勇気、何より生きる力は私自身が生み出すものではなく、主なる神と教会を通して与えられるものであることを学びました。

主がすべてを与えてくださる。そして私たちは自ら生み出すものでなく、上から与えられたもので生きる。私はみなさんに、神に与えられたものをただ感謝し、受け取ることにこそ、真の幸いがあることをお伝えしたい。

日本基督教団熊本城東教会

中村英之

発行所／（公財）熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節

愛を身に着けなさい。

愛は、すべてを完成させるきずなです。